



メキシコ合衆国 派遣期間 2013年4月～2016年3月

日本メキシコ学院 帰国報告

《LICEO MEXICANO JAPONÉS Sec.Japonésa》



滝川市立滝川第一小学校
教諭 佐藤 司

1. メキシコ合衆国について

◆ 31の州と首都シティの連邦区による連邦共和制国家

- ・ 標高2240mの高地にある首都メキシコシティ
日本で包装された物は膨らみ，沸点の違いからパスタなどの茹で方は難しい。
階段の上り下り，軽スポーツでも息が切れる。(帰国後の健康診断では，赤血球の数が増えていました)
- ・ 公用語はスペイン語
スペイン語とは少し異なる
メキシコスペイン語が使われている。
- ・ 世界遺産が30以上あり，マヤ・アステカ文明のピラミッドが点在する。
- ・ 日本からメキシコ
成田～メキシコ直通 約13時間
時差は15時間
サマータイム時は14時間



◆ メキシコの観光



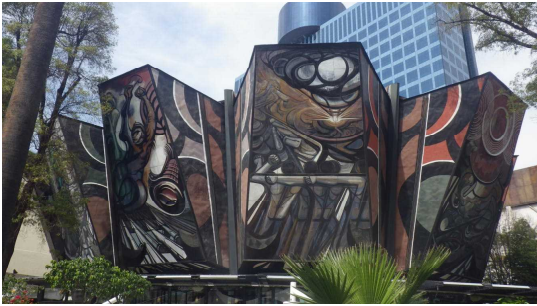
【チェチェンイツツア】

- ・ マヤ・アステカ文明の地
メキシコシティから車で日帰りができるティオティワカン(太陽・月のピラミッド)やマヤ文明の暦で2012年12月21日～23日ころ，1つの区切りを迎えるという考えから，人類最後の日になるとニュースになりみんなが集まった「チェチェンイツツア」など多くのピラミッドが森の中にそびえている。



【マリアッチ】

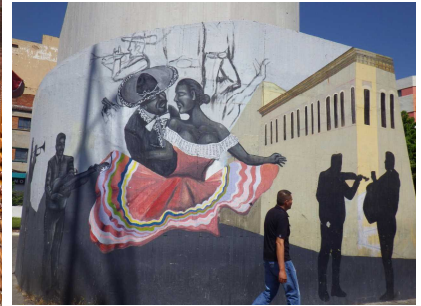
- ・ マリアッチの演奏
ソングレロ(メキシコでマリアッチがかぶっている大きなツバのある帽子)をかぶり，おそろいの衣装を身にまとって音楽を奏でるマリアッチ。レストランや公園で聞くことができる。テキーラ片手に音楽に酔いしれ，また陽気にダンスを踊るのも中南米ならではの観光の一つと言えるでしょう。
- ・ 芸術
シケイロス，オロスコ，ディエゴ・リベラ(妻：フリーダ・カーロ)の三大壁画画家の作品は色々な場所で見ることができる。



【建物そのものが壁画に囲まれる】



【天井に大きな絵】



【街の中の壁にも】

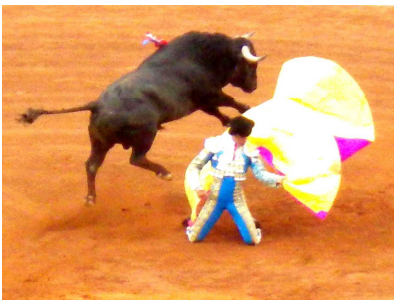
・海辺のリゾート地

カリブ海を望む国…世界的にも有名な観光地，カンクン。白い砂浜に，カリビアンブルーの海はリゾート地。また映画で有名なアカプルコもメキシコです。

・首都 メキシコシティ

地盤沈下が進むシティ。湖の上にできた埋め立て地なので，地盤が弱く古い建物はかなり傾いている。

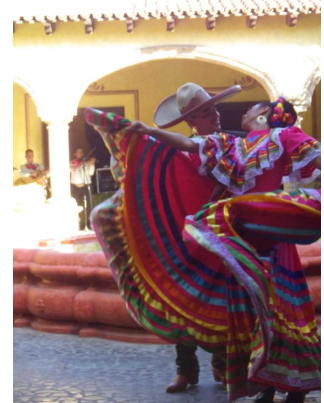
闘牛場や世界第一号となった「キツザニア」，博物館や美術館など数多くの観光地がある。街角の市場には様々な南国らしいフルーツや野菜，民芸品が並ぶ。町中からはマリアッチの音楽が流れ，伝統的なダンス…太陽の光が降りそそぐ素敵な国メキシコ。



【闘牛】



【キツザニア】



【メキシコダンス】

◆食べ物・飲み物

・ビール

日本でもおなじみのコロナビールはメキシコが原産国でメキシコシティに工場があり，コロナライトや少し小さな瓶に入ったコロニータもある。メキシコではグラスにライムを搾り入れ，そこにビールとチリを入れて飲む「ミチューラダ」という飲み方が人気。またテキーラのカクテル「マルガリータ」にコロナの瓶を逆さに差し込んで飲むカクテル(?) もある。



【コロナ入りマルガリータ】



【アガベ】

・テキーラ

ご存じ「テキーラ」は竜舌蘭

「アガベ」(サボテンではない。)からできている蒸留酒で，製造後の年月により3種類に分けられている。

ブランコ～製造後すぐに瓶詰め

レポサド～2ヶ月から1年目未満 樽で寝かせたもの

アニエホ～1年以上 樽で寝かせたもの

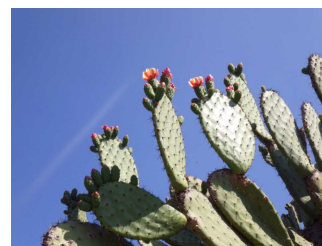
- ・国民食「タコス」

トルティーヤには色々な種類があるがトウモロコシの粉から作る物が主流。他には小麦粉や生地にチリを練り込んである物など様々。中に野菜，肉，チーズなどを具材にして包んで食べる。またサボテンを炒めて入れることもある。一口に「タコス」といっても色々な種類がある。

- ・サボテン

サボテンは少し酸味のきいた味で，茹でると少しネバネバしている。

ウチワサボテンの実をトウナと言ひ，大きめの種が入っていて大きさも味もキウイに似ている。



【サボテンの実 トウナ】

2. 日本メキシコ学院について

勤務していた「日本メキシコ学院 Liceo Mexicano japonés」通称リセオは，現地校である「メキシココース」と日本人学校の「日本コース」がある。両コースは，同じ敷地内に併設されており，授業の交流，行事の交流，そして教員同士の交流がある。その他にも交流時の通訳や学校の広報等を担当する文化センターやメキシココースでは日本語の授業もあるため，日本語教育部という部署もある。

学院内の設備の修繕・清掃等を行う部，またカフェテリア（軽喫茶）に働く調理員さんなど，教員以外にも数多くの人たち（日本人・メキシコ人）が働いている。

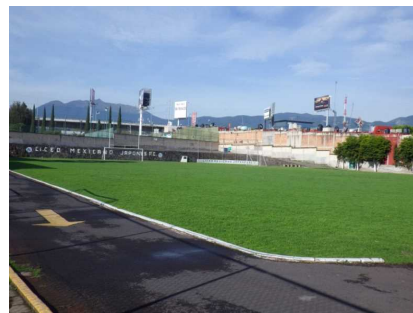
施設・設備も充実しており，体育館，プール（25mプール 半分から水深3m），全面タルタンの1周200mのグラウンド，サッカー用グラウンド，バスケットコート2面など，特に体育施設は充実していた。



【バスケットボールコート 屋外】



【体育館】



【サッカー場】

◆日本コース

- ・幼稚部（最近メキシココースから分かれて設置された），小学部，中学部がある。小学部，中学部は派遣教員，現地採用教員，事務部で構成されている。

- ・児童生徒は，日本人，日系メキシコ人，メキシコ人の他に，韓国・中国・ペルー・コロンビアなどのダブルの子ども達に通う。またメキシココースにも在籍している日本人もいる。

- ・保護者の仕事

日産，ホンダ，丸紅，銀行，ヤクルト，JICA，大使館関係など。

個人経営をしている人やメキシコの会社に勤務している方も多い。

メキシコには自国の自動車会社がないため走っている車はすべて外車。その中でシェアナンバーワンは日産。メキシコのアケアスカリエンテスでは，日産が大きな工場を建設し自動車生産をしているため，日本人も増え，メキシコにあるもう一つの日本人学校では，児童生徒数が増加している。

◆メキシココース

- ・幼稚部，小学部，中学部，高等部があり，それぞれに園長・校長がおり，メキシココース総校長として女性の校長先生がいた。
- ・授業は朝7：00～15：00までで，保護者が送迎している。
生活習慣として，10：30頃に一度軽食をとる時間がある。また昼食は昼食として別にとる。
- ・高等部は毎年，成績優秀な学校として上位に挙がる。また成績優秀な生徒は，様々な行事の国旗掲揚の際に旗手として選ばれ，名誉なこと。

3. メキシココース・日本コースの交流

◆学院全体の交流

- ・学院朝会，運動会，文化祭など。
また避難訓練は月1回行われる。これは1985年に起こったメキシコ大震災から，両コース・全学部がグラウンドに避難し，担当学部が震災や避難に関わったのデモンストレーションを行う。この場合も日本語，スペイン語の両方で行われ，文化センターが通訳を担当する。

◆各学部行事交流

- ・節分，こどもの日，七夕，死者の日（ハロウィンに似た行事），メキシコ独立記念日，クリスマスなどメキシコの行事や日本の行事での交流がある。

◆授業交流

- ・日本コースの教員が指導案を作成し，メキシココースとの授業交流を行う。
これまでに研修の中で計画，指導案作りを行ってきた。毎年1年間の中で数回，計画的に授業交流を行ってきているので，メキシココースの先生方にも浸透しつつあり，子ども達も交流を楽しみにしている。

◆他にも…みんなで交流

- ・児童生徒，保護者，教員とのバスケットボール，バレーボール，ソフトボール交流。
- ・営繕部とのサッカー交流。
- ・院内で働く人，ほぼ全員参加のパーティーがあり，ここでは日本とメキシコの料理が出され，音楽やダンスでみんなと交流する。



【メキシココース小学部主催の学院朝会】【両国の国旗入場はとても大切に行われる】【学院全児童・生徒・職員が避難訓練】

＜運動会＞



- ◆メキシココース・日本コースにとっての運動会とは…
 - ・運動会の開催は、学院全体をあけての一大行事である。
 - ・日本人にとっては「運動会」と言えば国民誰もが知っている馴染みのある行事であるが、ここメキシコでは日本で行われるような「徒競走」や「運命走」ましてチームが力を合わせ1つの競技を行う団体戦のような「運動会」を知らない。

スポーツ大会のように「サッカー」や「バスケットボール」のゲームを行う習慣はもちろんあるが、教師が考えた創作的な競技を行う「運動会」はまったく馴染みがない。

◆運動会を開催するにあたっての問題

- ・児童生徒は、練習を行っていくことで競技の内容を知り、また経験することで理解していくが、保護者（メキシコ人）にはまったくイメージがついていない。日曜日に開催するので、休ませる保護者もいる。このことから、保護者へ学院ホームページ等を活用し情報配信を行った。
- ・運動会開催に向けて「運動会準備委員会」を立ち上げ、運動会までの練習や当日の日程等をメキシココースの先生達と話し合いをしていく。計画・推進日程は5ヶ月前くらいから日本コースが行い、運動会そのものを知らないメキシココースの先生方を引っ張っていく形となる。日本語、スペイン語の通訳が入ったの会議となるため、時間がかかりかかってしまう。
- ・「運動会準備委員会」では、児童生徒はもちろん、教員の服装などについても話し合われるほど、事細かく確認していく。この会議で話し合われたことは各コース、各学部全教員に伝えられるが、人数の多いメキシココースの先生方が内容を理解し、練習に臨むわけではないので、練習はかなり大変なことになる。何年も経験している先生方は、理解し協力的ではあるが、教員の入れ替わりの激しいメキシココースの先生方に1から伝え、協力を仰ぐのも厳しいものがあつた。
- ・時程の違う両コースが集合し、練習するのはかなり問題があり、集合時刻が決まっても遅れてくる。服装の準備（制服があるので運動着ではない）がされていないなど。時間と忍耐力が必要となる。しかし最近では、メキシココースの先生方も協力的で、わからないながらもこちらのつたないスペイン語とポディーランゲージを読みとってくれようとしてくれている先生方が増えてきたので、私の1年目の頃よりやりやすい環境ができてきた。学院にとって大きな変化であり、今までの成果でもある。



【両コース・各部の教員で会議】

◆運動会でのメキシコおもしろあるある

- ・文化や習慣の違う両国が運動会をするので、色々とビックリすることがある。

＜ウィンク・ラン＞

毎年、勝ったチームはケラウンド1周のウィンク・ランを行う。

もちろんBGMはロッキーのテーマ。

＜友情のゴール＞

日本での徒競走は転んでも、靴が脱けても最後までそれぞれがゴールを目指します…が、メキシコは、誰かが転倒すると同走者は走ることをやめ、その子の元へ戻ってきて、肩を抱きかかえながら一緒にゴールを目指すという光景を目にしました。会場からは拍手。順位ではないのですね。

〈救急車がスタンバイ〉

運動会ではケガがつきものですが、グラウンド端には救急車がスタンバイしています。私の任期中の3年間では使用することはありませんでした。

〈場所取りは共通?!〉

日本でも場所取りの方法は色々ありますが、7時に門が開き、保護者の皆さんはお目当ての場所まで猛ダッシュします。朝5:30くらいから並び始めた人もいるほど。パーティー用の大きなプラスチック製のテーブルを担いでダッシュする姿は日本よりも迫力があります。また地べたに座る習慣のないメキシコ人は椅子を持ってきていましたが、それでは見えないということで椅子は禁止され、パラソルも禁止となりました。その代わりグラウンド一面にテントが設置されました。食べ物もホールケーキやオードブルなど。また自分の子どもの競技以外はトランプをする人もいました。スケールが大きく自由な国なのです。

〈保護者の応援〉

カメラや今ではスマートフォンを片手に応援が一般的ですが、ご家族・ママ友みんなでお手製のポンポンを持参しての応援もありました。

前日に行われる幼稚園部の運動会では、組ごとに保護者みんながお揃いのTシャツを作って応援をしていました。

〈綱引きは熱い!!〉

1つの綱を引っ張り合うお馴染みの「綱引き」。

これはメキシコでは大人気。保護者参加の綱引きには、毎年綱を持ちきれないほどの参加者があり、綱が切れないかといつも心配です。参加を呼びかける放送と共に、みなさんグラウンドへ。

【メキシコ人に大人気の綱引き】

また、全校児童・生徒、教員、保護者によるダンスタイムもあり、グラウンドに集まりダンスを行います。

もちろん、参加者多数!!



〈指導は要注意〉

メキシココースの子ども達の身体に触って指導することは日本コースで禁止されている。過去に裁判になりかけたことも。

〈授業交流〉

- ◆日本コースの研修テーマとして『メキシココースとの交流シラバスの作成』があった。

まずは、どんなことが交流としての授業ができるか。もちろん、各国の行事交流等は行ってきたが、日本コースの授業の中で何か交流を行えないか…から始まった。小学部の各学年、そして中学部としての授業の交流の内容を検討し、交流の中で子どもたちにつけさせたい力は…また時期はいつ頃か。2年間をかけ研修を行い、そして3年目は完成したシラバスの検証を行った。

- ◆ 5年生の「習字」交流・低学年の「運動会道具作り」交流
担任をもった5年生で「習字」交流を、そして2年目には、低学年の運動会用具作りのバリエーション作りを行った。

- ◆ 5年生「習字交流」

- ・ 1年目。小学部5年生。

子どもたちは週に2時間スペイン語を学習している。しかしスペイン語を学習しているが、実は使う機会が少ない。同じ敷地内に両コースが学校生活を送っているが、メキシココースに友だちでもいなければ、お互い別々に学習しているので話すことはほとんどない。子どもたちは「使ってみよう。」「友だちになりたい。」と思いつつも、なかなかコミュニケーションに自信がもてていないことが、児童の実態としてわかった。そこで自分たちが「教えてあげる」という立場から、自信をもって授業に臨める教科。そして日本の文化も伝えられるとして「習字交流」を行うことにした。



- ・ 事前準備

交流するにあたり、子どもたちにどの文字を教えてあげたいかを話し合った。日本らしい「季節」や「相撲」、「仲間」などの言葉が出てきた。メキシココースは3クラスあるので、年に数回、3クラスと交流することを考えれば、文字はいくつかあると飽きずに行うことができる。

次に、授業の中で使うであろう最低限度のスペイン語を子どもたちと吟味してその言葉を練習し、また黒板に掲示して行った。言葉が通じなくても手をとって教えてあげたり、やって見せたりと、子どもたちなりに工夫して行えた。またあらかじめ、メキシココースの子どもたちの写真と名前を聞いておき、学級に掲示しておいた。これはメキシココースにもお願いしてお互いのクラスで行っておいた。そうすることで交流の前に、自分のペアの顔と名前を知っておくことができる。授業の始めに自己紹介を行うが、お互いに名前を呼び合おうとそれだけ交流もしやすくなり、心の距離も縮まる。



- ・ 簡単なスペイン語を介して、会話をしながら自分たちの文化を伝えることができたことは、スペイン語を話すことができたという自信に繋がり、交流を楽しむようになった。また、メキシココースの児童も日本の文化に触れることができたことで、両コースの児童が有意義な時間を過ごすことができる交流となった。お互いを知り合えたことで声をかけ合う姿も見られるようになった。

- ◆ 低学年「運動会用具作り交流」

- ・ 運動会では、徒競走と毎年決まっている競技（低学年は「玉入れ」）と、先生方の創意工夫からなる競技の3種目は全員が出場する。（両コースから選抜された選手リレーもある。）

先生方の創意工夫からなる競技は、みんなで協力して何かを「リレー」する。バリエーションを変えると説明や練習が大変となるためと、メキシココースの人数が多いため、数人が1回に走ることをしている競技となっている。

- ・ 低学年は運動会で使う道具、みんなで運ぶ何かを一緒に作る交流を行った。

- ・ 毎年同じものだと飽きてしまうこともあり、3パターンを考え、ローテーション

ンで作ることになった。

御神輿・お寿司・ソングレロの3パターンとして、毎年2年生が授業交流で作製する。

- ・自分が行った交流のお寿司作製は、メキシコでも日本のお寿司は有名（メキシコにも回転寿司がある）で、お皿とお寿司を作成したことや観客からは回転寿司のように見えて、かなり大好評だった。



【お皿の色つけ】



【いくらの軍艦巻き】

4. メキシコでの生活を通して

『メキシコ』と聞いて「危険」「マフィア」「いけない薬」などなどプラスのイメージより残念ながらマイナスのイメージが強かったので、すぐに世界危険度ランキングを調べてしまった。

誘拐防止のために人混みへ出かける際には、子ども達に（専用の）ヒモをつける姿に驚いたものの、町中を走るバスで満員の時には、乗ってくる乗客同士でお金を運転手まで手渡ししていき、おつりも乗客達の手を渡って返ってくるなど、犯罪が多い国とは思えない現地のルール。住めば都なのです。

まとわりつく日本の夏の暑さと違い、標高が高いためにカラッとした気候で本当に心地良い太陽の国。音楽が流れればみんなが歌い、踊り始める中南米の国民性でしょうか。いつも陽気な人たち。すれ違えば誰にでも挨拶をかわすフレンドリーさ。

異文化に自分から溶け込み、進んで楽しもうとすることで、海外生活がより充実し素敵な時間を過ごすことができました。



【動物園での光景 子どもの腰には紐】

5. 日本メキシコ学院で勤務をして

日本全国から集まってきた先生方と一緒に仕事ができ、各地域の教育事情やそれぞれの先生方がもっている教育テクニックなどを聞くだけでも大変よい研修となりました。

ここ『日本メキシコ学院』はメキシココースも併設されているということで、児童・生徒だけでなく、先生方をはじめ、学院内で働くメキシコ人の方々ともふれあうチャンスが多く与えられました。一緒に行事の計画を立てたり、学院生活の中でお互いの文化の交流を行ったりできたことは、貴重な貴重な経験です。生活・文化・習慣…と、いつもと違った日常を送ることができた3年間でした。海外へ行ったことで日本の文化を自分自身をもっと知り、伝えられるようにしなければと思いました。改めて世界って広い！ほんの少しでしょうが世界に触れたことは私にとつての大きな糧となりました。出会った人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。



【メキシコ人の前で披露 デゴロツツ】